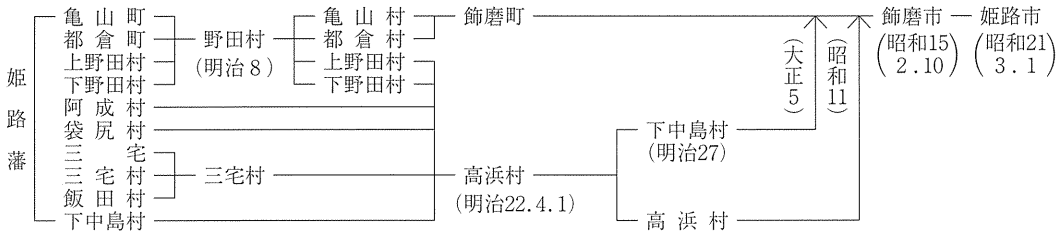
文化財見学シリーズ 42　　姫路市教育委員会文化部文化課（平成11年３月１日発行）

『高浜地区』をたずねて

高浜地区は、現在区画整理がすすみ、新しく道路網が整備されて市街地が形成され、昔の姿を一変させつつある。この高浜地区を訪ね、昔の面影を残す所や、大切に保存されて来た文化財を訪ねてみよう。

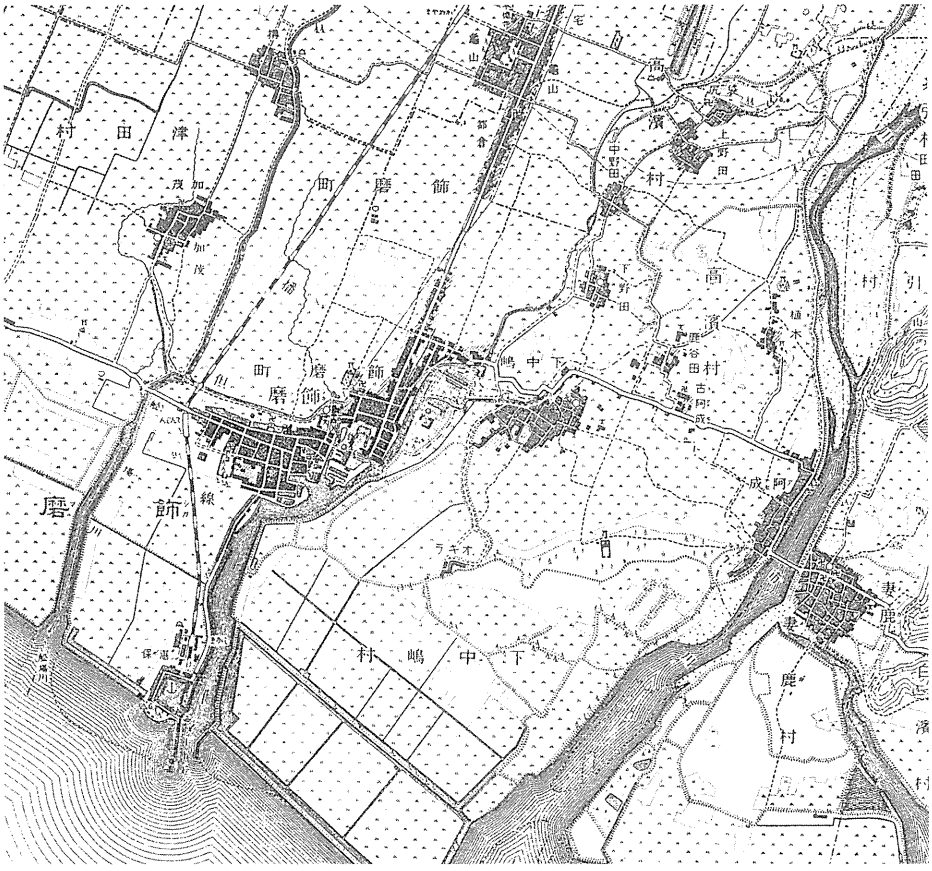
この地域は、下掲の明治26年測図の地形図に見えるように、市川本流とかつて南条東方の黒石から分かれ西南方の野田川に通じる分流があり、その間にできた三角州の地形である。この三角州上の自然堤防や、江戸期以前に成立の海岸砂堆上などに集落が発達した。中でも、阿成のように古くは奈良時代に記された風土記にその名を見る所もあり、江戸時代には北から袋尻・上野田・下野田・阿成・下中島の村々が成立していた。江戸期に阿成・下中島の南方に干拓新田が開かれ、海岸線は時代とともに南下した。明治以降、一時野田村の分離独立があるが、明治22年４月１日の町村制施行時には、下中島・三宅・袋尻・阿成・下野田・上野田の各村を含めた範囲が高浜村となった。本文で高浜地区と称しているのは、この明治22年の高浜村の範囲としている。その後明治27年に下中島村が分離し下表のように順次、飾磨町に編入、昭和15年に飾磨市となった。昭和21年に姫路市に合併し、現在姫路市飾磨区に含まれ、もとの大字が町名となる。（合併の経過は下表のとおり）



右の地図は明治26年（1893）測図、同36年修正、39年発行のもの。

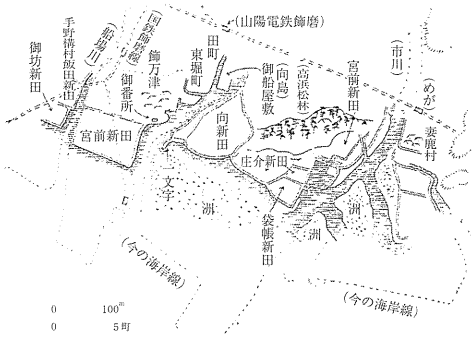
古い地図を見ると、地形的特徴や、村々の発達の様子などが良く分かる。

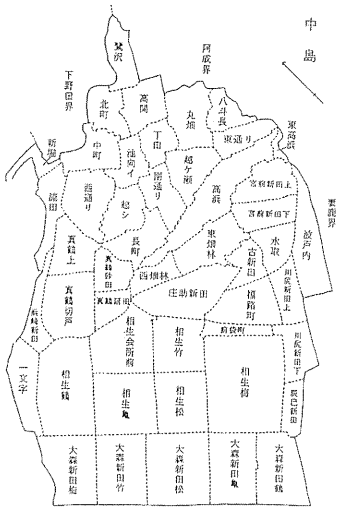
『飾磨郡誌』によると「高浜」の名は、阿成から西にのびる海岸砂堆に生じた松林を高浜松林と呼んだことから名付けられた。



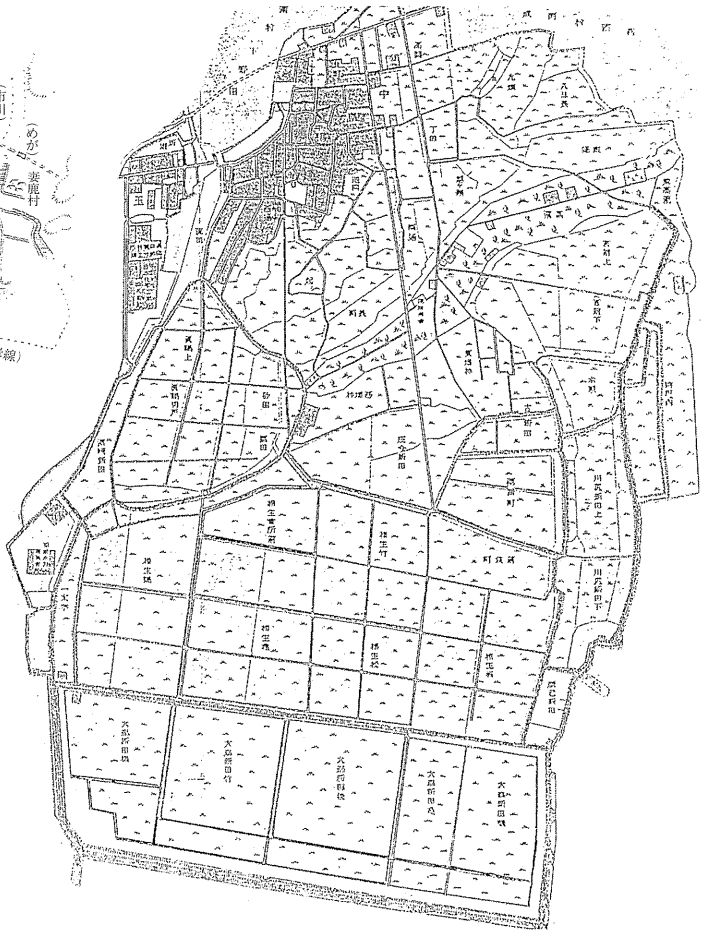
（昭和30年発行姫路市史第１巻地理編より）

文化十二年（一八一五）頃の海岸線





（田中早春著　姫路市小字地名・小字図集より）



（大正９年発行飾磨町誌より）

新田開発　現在、飾磨区中島の天満神社の東西に連なる集落は、高浜と地図に記された土地である。ここは江戸時代以前の海岸線に発達した海岸砂堆で、その南方は、江戸時代に入って次々と新田として開発されたところである。

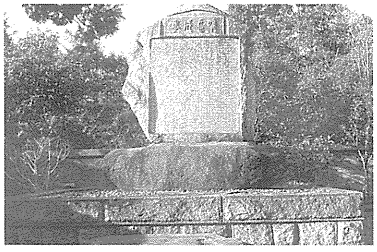
庄助新田　11町歩　宝暦８(1758)～明和１(1764)年の開発。阿成の豪商三代目浜田庄助が開拓したもの。

相生新田　60町歩　文政８(1825)～天保13(1842)年の開発。姫路藩家老河合寸翁の勧めをうけ、六代目浜田庄助が中心となって有志を誘い干拓したもの。

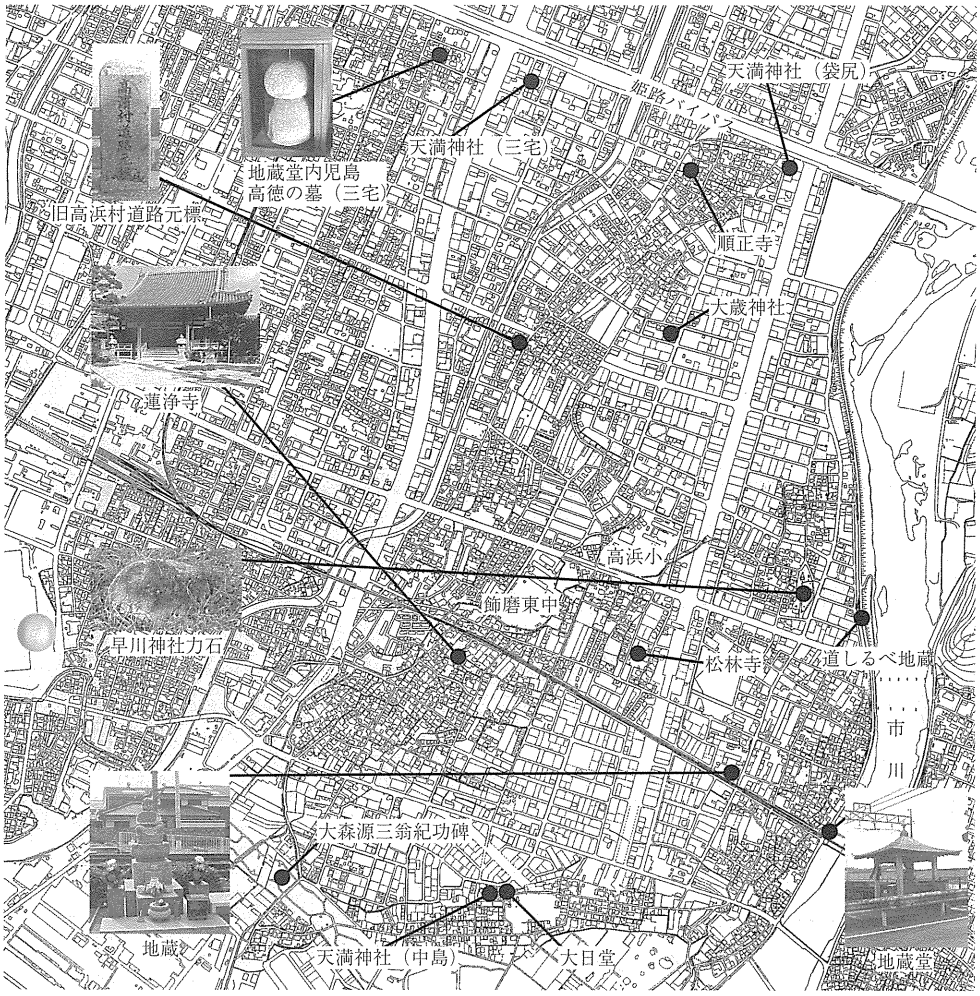
大森新田　150町歩　天保10(1839)～文久３(1863)年の開発。下中島村の大森源三が中島の南方の地に大新田干拓計画を立て、藩に願い出、度々の堤防決壊にもめげず、20数年の歳月を費やして大新田を開発したもの。

大森源三翁紀功碑（飾磨区中島）　大森新田の干拓者大森源三(明治23年没)の業績が記されている。明治26年建立。碑文によると、源三は文化８(1811)年飾西郡八幡村則直の三木勘兵衛の次男として誕生した。源三は幼年に母の里・大森家の養子となり、成人するに及んでは、下中島・阿成・家島各村の庄屋を兼ね、後の大庄屋觸元となったとある。

［父親の三木勘兵衛は、姫路市大津区勘兵衛町の勘兵衛新田の干拓者。文化財見学シリーズ37参照］



▲大森源三翁紀功碑（飾磨区中島）



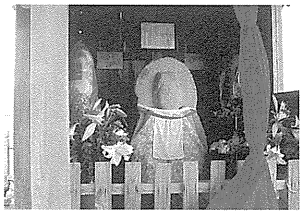
天満神社（飾磨区中島）　祭神菅原道真。創建年代は不詳。飾磨の恵美酒宮より分霊を勧請したという。もとは蓮浄寺門前にあったが、境内が狭く、元禄7(1694)年再建の機会に現在地に移した。『播州名所巡覧図絵』に「濱の天神という楼門・大鳥居あり」とあるが、現在楼門はない。本殿西側に中島の大森弥衛門が文久2(1862)年に持ちあげた力石が保存してある。拝殿には絵馬が多く、江戸期から最近のものまである。

大日堂（飾磨区中島）　天満神社東隣にある。高さ約1.3m半肉彫の大日如来像を刻む。年代は不明だが、風化がかなり進んでいる。堂裏に五輪塔などの一部が多く集めてある。

蓮浄寺（飾磨区中島）『飾磨郡誌』によると、浄土真宗本願寺派。永正14(1517)年開基。寺号を付したのは慶長2(1597)年とある。江戸時代に二度火災にあっている。

早川神社（飾磨区阿成）　速川社とも称し、阿成の氏神で兵主神（大己貴命）を祀る。市川河口の自然堤防上にあり、『播磨国風土記』の倭穴無神の神戸のあった所とみられる。倭穴無神は『延喜式』に大和国に穴師坐兵主神とあり、新抄格勅符には神戸52戸のうち39戸が播磨にあったとある。この神の分霊を播磨に祀ったのが早川神社で、神の名からこの地を「アナシ」と呼んだと伝えられ、江戸時代に入って阿成の文字が使われるようになった。境内は広く、古くから鎮守の森として樹木が育ち、古木も多く、市指定の保存樹もエノキ・ムクノキ・ケヤキ・イチョウ・アラカシ等多くの種類がある。石造品としては、文化13(1816)年銘の宮型燈籠の他に神社裏に、石棺の底石とみられるものや、力石と思われる石2個がある。幣殿内部には江戸期の絵馬が多く保存され、天保7(1836)年の絵馬には、相生新田開発連中13名の名がみられる。

▲天満神社（中島）


▲大日堂（飾磨区中島）

▲早川神社（飾磨区阿成）

道しるべ地蔵（飾磨区阿成）　早川神社の東方・市川堤防下にある。安政年間(1854～60)には阿成の渡し場にあったものといい、昭和43年に現在の堂に移したという。「左かめやま、右ひめじ」の文字と上端部に仏像を彫っている。

松 林 寺（飾磨区阿成）　浄土真宗大谷派。もと中島にあった天台系の寺院。万治年間(1658～61)堂宇焼失したので寛文13(1673)年現在地に移った。境内の手洗い石は安政6(1859)年のもの。

旧高浜村道路元標（飾磨区下野田）　道路の起点・終点などを示す。大正9年飾磨郡内27箇所に設置された。高浜村の元標は野田川の東・森房明神北100mの所にある。

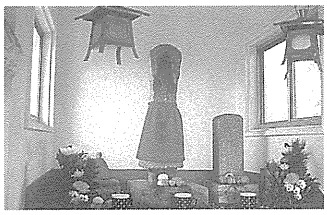
大歳神社（飾磨区上野田）　もと南条と上野田の氏神であった妙見大明神社を明治初年に大歳神社に改めていた。昭和57年の市川西区画整理に伴い、南条の大歳神社移転改築の際に、その分霊を勧請し平成6年に上野田大歳神社として祀ったもの。

天満神社（飾磨区袋尻）　袋尻の氏神で、祭神は菅原道真。創建年代は不祥。当集落の成立と同時に祀られたものであろう。拝殿には毎年の干支の動物と氏子入りをした子供の名を記した絵馬が並んでいる。

順 正 寺（飾磨区袋尻）　浄土真宗本願寺派。開基年代は定かではないが本尊裏書から寺号を公称したのは元禄4(1691)年とみられる（飾磨郡誌）。

天満神社（飾磨区三宅）　姫路バイパスのすぐ南にある。飾磨区亀山・三宅の氏宮で、菅原道真を祀る。『飾磨郡誌』には、この神社にまつわる伝承として、付近一帯が竹藪であった昔、八面のいたちが棲み田畑を荒らし人畜に害をなしたので、庄屋の男がこれを射殺した。のちその怨霊が災するのを恐れて社を建て、神として祀り、八の宮と称したとある。同書に郷土史家矢内正夫氏の説として、伝説の由来を、もともとこの社は『播磨国風土記』の因達里のイダテの神を祀ったものであり、更に後、菅原道真を祀ることで、もとの神名が消えたのではないかと記している。境内に寛政7(1795)年の銘の宮型燈籠がある。

地 蔵 堂（飾磨区三宅）　飾磨街道を少し東へ入った所に地蔵堂がある。もと天満神社境内にあったが、江戸末に今の場所に移したという（飾磨郡誌）。堂内部には、地蔵像と他に五輪塔や層塔の残欠が保存されている。左端にある水輪二個を積み上げたものは『太平記』に登場する児島高徳の墓と称せられ、各々の石に児島と高徳の文字が刻まれている。

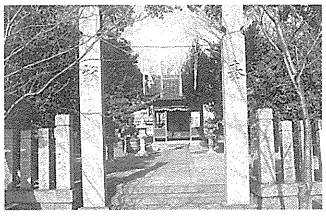

▲道しるべ地蔵

▲松林寺（飾磨区阿成）

▲大歳神社（飾磨区上野田）

▲天満神社（飾磨区袋尻）

▲順正寺（飾磨区袋尻）


▲天満神社（飾磨区三宅）

■編集　糸田恒雄（姫路市文化財嘱託調査員）